

当院人間ドックにおける睡眠時無呼吸症候群簡易検査の結果報告

簡易検査結果と健診データおよび睡眠関連症状との関連性の検討

◎武智 留美¹⁾、吉原 紘子¹⁾、岡崎 陽子¹⁾、後藤 寛子¹⁾、阿部 敦子¹⁾、瀬川 貴恵¹⁾、吉岡 辰泰¹⁾、奥田 英裕¹⁾
N T T 東日本伊豆病院¹⁾

【目的】当院人間ドックにおける睡眠時無呼吸症候群（Sleep apnea syndrome:SAS）の簡易睡眠ポリグラフ検査（簡易 polysomnography(PSG)検査）の呼吸イベント指数（respiratory event index:REI）と健診データ、生活習慣および睡眠に関するアンケートの関連性について検討した。

【対象及び方法】2020年7月～2021年12月に当院人間ドック（1泊2日）を受検した15,480名（男性13,408名、女性2,072名）のうちオプション検査として簡易PSG検査を実施した受検者343名（男性310名、女性33名）を対象とした。簡易PSG検査は携帯型睡眠時無呼吸検査装置SAS-2200を使用、当院臨床検査技師にて装着説明・マニュアル解析を行った。

解析の結果のREIと健診データ（年齢・身長・体重・収縮期血圧・BMI・TCHO・TG・LDL・HDL・空腹時血糖・HbA1c）飲酒習慣・飲酒量、眠気の自覚症状の評価法であるエプワース睡眠尺度（Epworth Sleepiness Scale:ESS）睡眠に関連する症状（いびきの指摘・無呼吸の指摘・熟睡感・起床時頭痛）について検討した。

【結果】REIの範囲は0.0～80.0で、正常28名（平均REI2.5）、軽症群112名（平均REI9.3）、中等症群133名（平均REI20.1）、重症群70名（平均REI41.0）であった。REIと検討項目での統計学的検討にて、体重・BMIでは正の相関を認め、収縮期血圧・TG・空腹時血糖では弱い正の相関を認めた。HDLでは弱い負の相関を認めた。ESSとの相関は認めなかった。飲酒習慣・飲酒量においては、飲酒量が多い習慣がある25名（7%）は軽症群以上となった。睡眠に関するアンケートでは、いびき・無呼吸の指摘がある群、起床時頭痛を有する群では有意差を認め、熟睡感の有無では有意差は認めなかった。

【結語】今回の検討では、肥満・血圧とREIとの関連性を認めた。ESSでは関連性は認めなかったが、睡眠に関する症状での関連性は認められた。受検者への簡易PSG検査を積極的に勧めていく指標として、眠気の自覚症状の有無にかかわらず、肥満・高血圧・いびきや無呼吸の指摘・起床時頭痛症状は有効と考えられる。

NTT 東日本伊豆病院 武智留美 (055)978-2320